資源がめぐる真ん中に。
DOWA
証券コード：5714

第123期 中間報告書 株主のみなさまへ

BUSINESS REPORT

2025 / 12 / Vol.70

2025年度（2026年3月期）中間期の連結経営成績について

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2025年度（2026年3月期）中間期における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

当中間期における当社グループの事業の状況につきましては、環境・リサイクル関連サービスは廃棄物処理の受注が堅調でした。自動車関連製品およびサービスは、自動車の生産が回復基調にあったことから受注・販売が増加しました。情報通信関連製品の販売は堅調に推移しました。他方、新エネルギー関連製品の販売は前第２四半期以降、低調に推移しました。前年同期と比較して平均為替レートは円高ドル安となったものの、金、銀およびPGM（白金族金属）等の貴金属の平均価格が上昇したことが業績に寄与しました。一方で、第２四半期末にかけて為替が円安で推移したことや貴金属相場が上昇したことに伴い、デリバティブ評価損失が拡大しました。電力代等のエネルギーコストは前年同期と比較して減少したものの、製錬原料の購入条件等の悪化が収益に影響を与えました。また、人件費や減価償却費等が増加しました。

これらの結果、当中間期の売上高は前年同期比10.0％減の3,171億円、営業利益は同45.3％減の117億円、経常利益は同42.2％減の156億円となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は同33.6％減の136億円となりました。

当社グループは、今後も企業価値のさらなる向上に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

代表取締役 社長執行役員 CEO　**関口 明**

連結財務ハイライト

※億円未満切り捨て

2025年度中間期

売上高

3,171億円

（前年同期比 △10.0%）

営業利益

117億円

（前年同期比 △45.3%）

経常利益

156億円

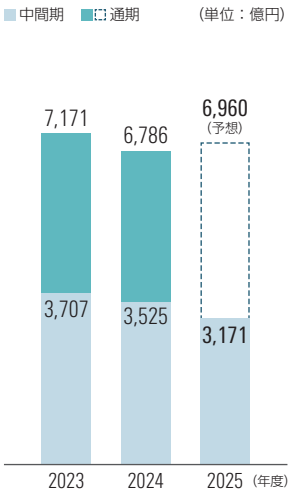
（前年同期比 △42.2%）

親会社株主に帰属する中間（当期）純利益

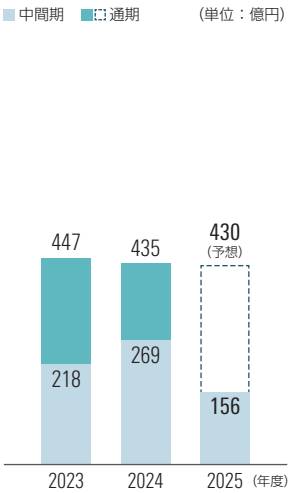
136億円

（前年同期比 △33.6%）

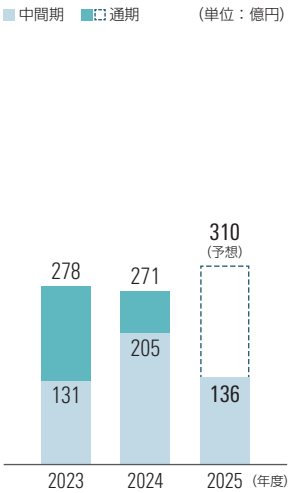
売上高



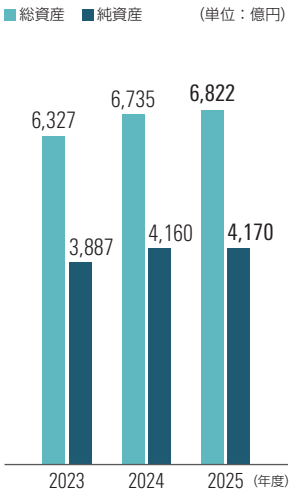
経常利益



親会社株主に帰属する中間（当期）純利益



総資産／純資産※



※2025年度の総資産および純資産については、中間期実績を記載しています。

亜鉛が支える私たちのくらし

～DOWAの亜鉛事業～

DOWAメタルマイン

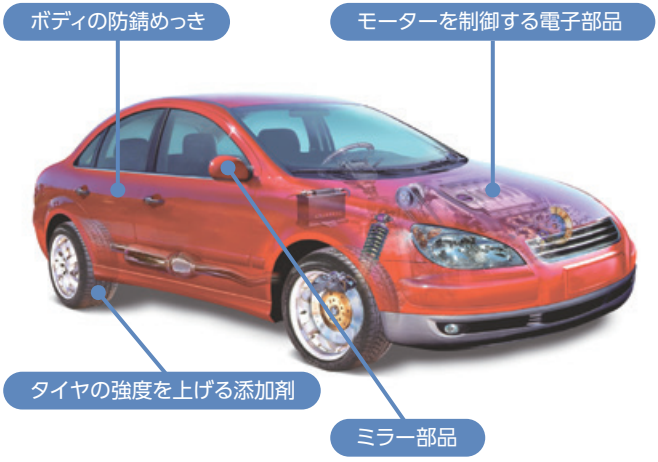
私たちが日々くらす中、あらゆるところで非鉄金属が使われています。宝飾品に使われる金・銀・プラチナなどの貴金属や、電線などに使われる銅は比較的イメージがつきやすいですが、他にも様々な金属があらゆるところで、私たちのくらしを支えています。今回は、DOWAの主要事業の1つでもある亜鉛についてご紹介します。

亜鉛の機能と幅広い用途

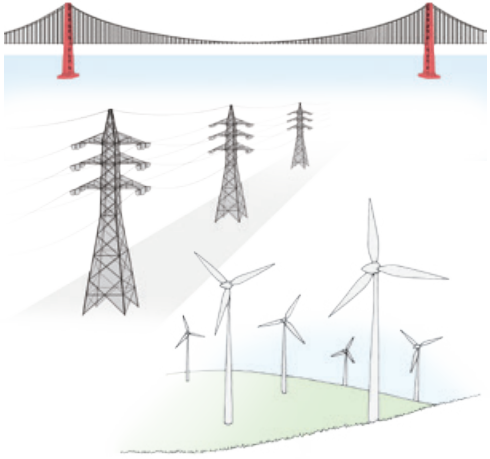
亜鉛の機能として、鉄製品の錆びを防ぐこと（防錆）があります。鉄製品に亜鉛をめっきしたり、貼り付けたりすることで、劣化を遅らせて寿命を延ばすことができます。その特徴を生かして、自動車の車体や建造物の鉄骨、風力発電の風車などの大きなものから、家電部品などの小さなものまで、幅広く亜鉛が使われています。

また、亜鉛で自動車や家電の部品を作ることもあります。亜鉛はダイカストという方法で精密な加工ができるので、部品の外装から内部の歯車まで、サイズの狂いなく作ることができます。先端材料向けでは、xEVのモーターを制御する電子部品にも使われており、EV化の進展に伴って需要の増加が期待されています。その他には、自動車などのタイヤやアルカリ乾電池、化粧品、サプリメントなどにも使われています。このように、亜鉛はとても生活に身近な金属なのです。

自動車での使用



屋外構造物の防錆



DOWAの亜鉛事業の特長

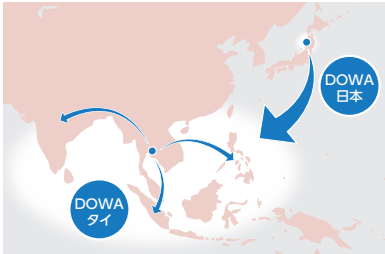
秋田製錬の生産量と独自技術

亜鉛事業の中核拠点は、秋田県にある秋田製錬です。年間21万トンと日本最大の亜鉛生産量を誇っています。秋田製錬は、1971年に国内非鉄製錬の各社による共同出資でスタートし、2024年3月にDOWAグループの100%子会社となりました。2025年4月には、亜鉛リサイクル原料の前処理、線や粉等への亜鉛地金の加工、鉱石に含まれているレアメタルの生産など、DOWAグループで亜鉛製錬に関連する機能を持っている会社を、秋田製錬に統合し、経営の効率化を進めています。今後は、リサイクル原料の比率を増やし、リサイクル亜鉛の生産量を拡大していきます。

また秋田製錬には、他の亜鉛製錬所では処理できない、貴金属やレアメタルを多く含む亜鉛鉱石を処理できるという独自の技術があります。鉱石に含まれていた貴金属などは、DOWAグループの他の製錬所で個別の金属として生産されます。このように秋田製錬は、単に亜鉛を製錬するだけでなく、亜鉛を軸として金属資源の循環を幅広く手掛けるDOWAグループの重要拠点なのです。

秋田とタイからアジアの亜鉛需要を支える

DOWAでは、タイに、DOWA METALS & MINING（THAILAND）という亜鉛加工の拠点を持っています。この拠点は、タイ唯一の亜鉛製品の加工工場として、自動車・建材など様々な業界の顧客ニーズに対応し、タイ以外にも経済成長が著しいベトナムやインドネシアなど東南アジア全域へと製品を供給しています。日本とタイの2拠点から、アジア圏内に亜鉛製品を供給し、柔軟・迅速で安定したサービスを提供しています。

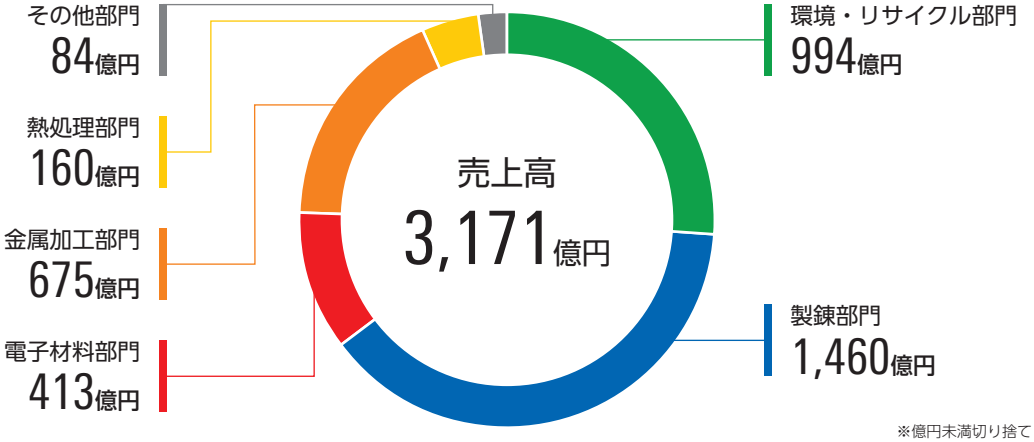


DOWAの亜鉛事業は、亜鉛製品をグローバルに安定供給するとともに、DOWAの「製錬・リサイクル複合コンビナート」を支える重要な事業として、一層の成長を目指していきます。

部門別の営業状況

部門別連結売上高構成（2025年度中間期）

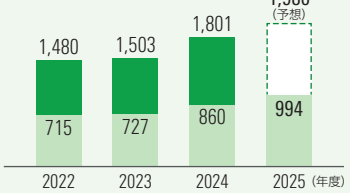
※各部門の売上高には、連結調整による消去分616億円を含んでいます。



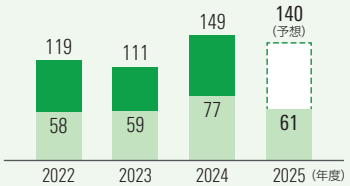
※億円未満切り捨て

環境・リサイクル部門

● 売上高　中間期　通期（単位：億円）



● 経常利益　中間期　通期（単位：億円）



2025年度中間期

● 売上高

994億円（前年同期比 ＋15.6%）

● 経常利益

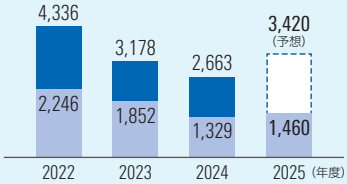
61億円（前年同期比 △20.3%）

焼却処理プラント

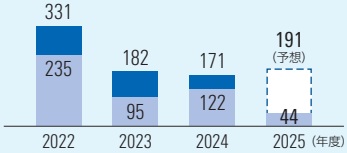
廃棄物処理事業では焼却の処理量は減少したものの、処理単価は堅調に推移しました。溶融・再資源化の処理量は増加しました。土壌浄化事業では受注済みの案件の処理が順調に進捗しました。一方で、不燃性廃棄物の再資源化の処理量は減少しました。リサイクル事業では家電リサイクルの処理量は増加しました。一方で、当社グループ製錬所向けのリサイクル原料の集荷量は減少しました。また、貴金属相場の影響でデリバティブ評価損失を計上しました。東南アジア事業では、インドネシアにおける廃棄物処理の受注が増加しました。営業外損益では、廃棄物処理事業の持分法投資損益が悪化しました。

製錬部門

● 売上高　■中間期 ■通期（単位：億円）



● 経常利益　■中間期 ■通期（単位：億円）



2025年度中間期

● 売上高

1,460億円（前年同期比　+9.8%）

● 経常利益

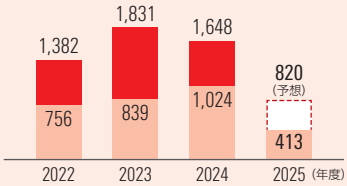
44億円（前年同期比 △63.8%）

亜鉛工場の設備

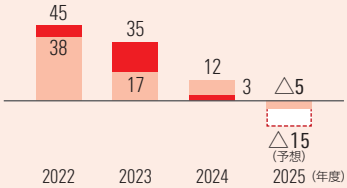
貴金属銅事業では金の生産量増加、金および銀の平均価格上昇により、売上高は増加しました。一方で、貴金属相場の影響でデリバティブ評価損失を計上しました。PGM事業では使用済み自動車排ガス浄化触媒の集荷量が増加しました。一方で、為替相場の影響でデリバティブ評価損失を計上しました。また、前第３四半期に北米で新サンプリング拠点の稼働を開始したことで、減価償却費が増加しました。亜鉛事業では亜鉛の生産量は減少しました。また、電力代等は減少したものの、原料代は製錬原料の購入条件が悪化しました。営業外損益では海外亜鉛鉱山の持分法投資損益が悪化しました。

電子材料部門

● 売上高　■中間期 ■通期（単位：億円）



● 経常利益　■中間期 ■通期（単位：億円）



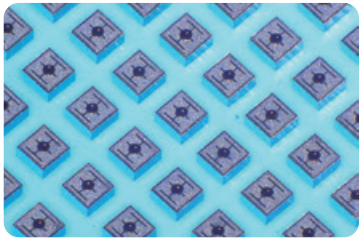
2025年度中間期

● 売上高

413億円（前年同期比 △59.6%）

● 経常利益

△5億円（前年同期比　　ー%）



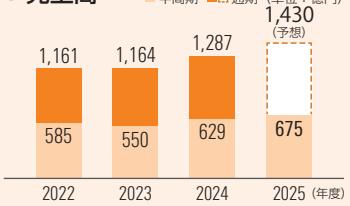
近赤外LED

半導体事業では新規製品の量産販売開始により、ウェアラブル機器向け近赤外LEDおよびPD（受光素子）の販売が増加しました。電子材料事業では需要の調整局面の継続に加え、競合他社との競争激化により、銀粉の販売は減少しました。機能材料事業では磁性粉の販売が低調に推移しました。営業外損益では新規製品の有償サンプル代収入が増加しました。

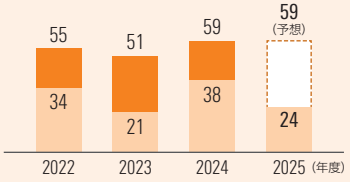
部門別の営業状況

金属加工部門

● 売上高　■ 中間期　■ 通期（単位：億円）



● 経常利益　■ 中間期　■ 通期（単位：億円）



2025年度中間期

● 売上高

675億円（前年同期比　+7.3%）

● 経常利益

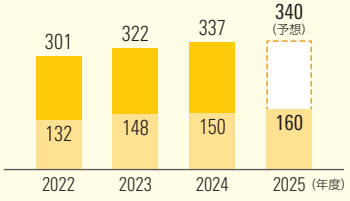
24億円（前年同期比 △36.1%）

伸銅品の製造工程

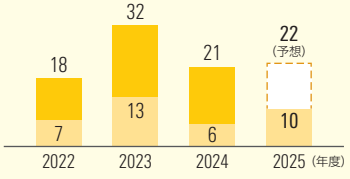
伸銅品事業では自動車の生産が回復基調であったことから、自動車関連製品の販売は増加しました。また、AIサーバー向け等の需要が堅調であったことから、情報通信関連製品の販売は増加しました。一方で、前年同期は銅価格の上昇が業績に寄与しましたが、当期はその効果が剥落しました。めっき事業では自動車向けの需要が堅調に推移しました。回路基板事業では販売が堅調に推移しました。

熱処理部門

● 売上高　■ 中間期　■ 通期（単位：億円）



● 経常利益　■ 中間期　■ 通期（単位：億円）



2025年度中間期

● 売上高

160億円（前年同期比　+6.9%）

● 経常利益

10億円（前年同期比 +59.0%）

CO_2排出を減らした次世代熱処理炉

熱処理事業では国内の自動車生産が回復基調であったことから、熱処理受託加工の受注は増加しました。工業炉事業では設備販売およびメンテナンスの受注が堅調に推移しました。

DOWAグループの安全への取り組み

～安全に・安心して働くことができる会社を目指して～

DOWAグループは、「安全はすべてに優先する」という基本理念に基づき、安全に・安心して働くことができる職場づくりを進めています。今回は、事故・災害の防止に向けた安全教育や安全対策をご紹介します。

危険を体感できる教育施設の配備

製造現場では、機械や電流、薬品や溶けた金属など、様々なものを扱います。一歩扱いを間違うと大きな事故につながる恐れがあるため、安全に働くことができるように教育を行っています。安全な行動を身に付けるには、どのような状況が危険なのか把握する必要があります。そこでDOWAグループでは、安全な状況で設備や作業の危険性を効果的に学ぶために、各拠点へ危険体感教育施設の配備を進めています。拠点ごとに製品や設備が異なるため、それぞれカスタマイズして効率的な施設にしています。また、VR装置を導入して、高所からの転落や感電、爆発などを視覚的に疑似体験できるようにして、安全教育の質を高めています。

危険な状況を疑似体験

火花が飛ぶ作業を安全に体験

AIを活用した熱中症対策

製造現場や工事現場では、夏でも長袖の作業着を着ていたり、高温になった設備や金属を扱ったりと、熱中症リスクがあります。昨今の気温上昇の影響もあり、ここ数年リスクは高まっています。DOWAグループでは、作業環境を快適にするように設備投資や空調服の導入等も進めていますが、熱中症のなりやすさは個人や体調によって差があります。そこで、熱中症の発症前に対応できるよう、AIを活用して個人ごとの熱中症リスクを把握できる機材の導入を進めています。

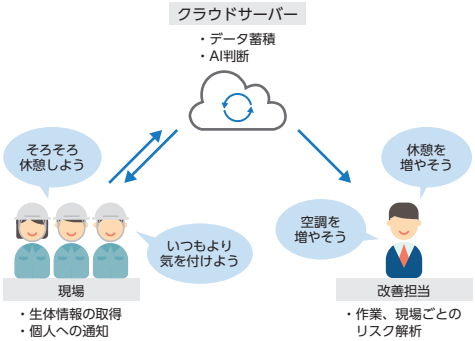
▶ ウェアラブルデバイス

スマートウォッチ型の機器で生体情報を取得・蓄積し、AIが個人ごとに熱中症の兆候や日々の体調変化を通知しています。熱中症になる前に自覚することで、予防につながっています。また、データの蓄積によって熱中症の兆候が出やすい現場や作業を特定することができ、設備投資の判断にもつながっています。

▶ AIカメラ

工事など、取引先の方が現場で作業することがあります。特に製錬の現場では毎年夏に大規模な設備補修を行っており、多くの人が出入りします。そのような状況で個人ごとの熱中症リスクを下げるために、AIカメラを導入しました。表情変化などを読み取って、AIによってわずか数秒で熱中症リスクを判断できるので、大人数を短時間で確認することができます。

AI活用のイメージ



働く人の安全を目指した結果、従業員の定着率の向上や新入社員の早期戦力化など、事業基盤の強靭化につながる良い影響も出ています。DOWAグループはこれからも安全に・安心して働くことができる環境を提供し、従業員や取引先の方と一緒に、企業の成長に取り組んでいきます。

役員

取締役

代表取締役	関口　明
取　締　役	飛田　実
取　締　役	菅原　章
取　締　役	片桐　敦
取　締　役	細野　浩之
社外取締役	小泉　淑子
社外取締役	佐藤　公生
社外取締役	柴山　敦
社外取締役	山口　純子

監査役

監査役（常勤）	木村　鋭
監査役（常勤）	堤　あづさ
監査役（非常勤）	大庭　浩一郎
監査役（非常勤）	小室　真吾

執行役員

社長執行役員 CEO
関口　明

副社長執行役員 CIRO
循環型ビジネス革新
品質保証部、環境・安全部担当
飛田　実

常務執行役員 CHRO
人事部、総務・法務部担当
片桐　敦

執行役員
DOWAエコシステム㈱　代表取締役社長
矢内　康晴

執行役員
DOWAエレクトロニクス㈱　代表取締役社長
鈴木　健彦

執行役員
DOWAサーモテック㈱　代表取締役社長
加川　康樹

執行役員
DOWAマネジメントサービス㈱　代表取締役社長
総務・法務部長、秘書室長
若林　英一

常務執行役員 CTO
事業開発部、知財部担当
菅原　章

常務執行役員 CFO
経営企画部、経理部、財務部担当
細野　浩之

執行役員
DOWAメタルマイン㈱　代表取締役社長
福田　健作

執行役員
DOWAメタルテック㈱　代表取締役社長
鬼王　孝志

執行役員
DOWAテクノロジー㈱　代表取締役社長
DX推進部担当
猪股　寛成

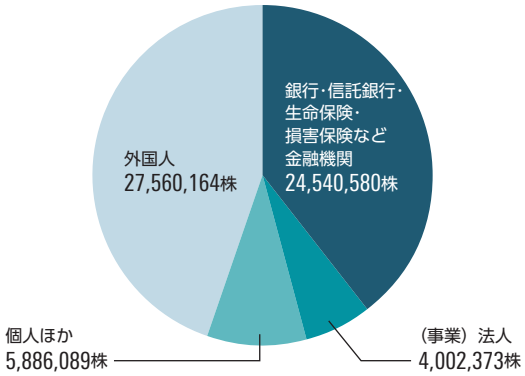
＜略称について＞
ＣＥＯ：Chief Executive Officer
CIRO：Chief Innovation & Risk Officer
ＣＴＯ：Chief Technical Officer
CHRO：Chief Human Resources Officer
ＣＦＯ：Chief Financial Officer

会社概要・株式の状況（2025年9月30日現在）

会社概要

創 業	1884年9月18日
設 立	1937年3月11日
資本金	364億37百万円
DOWAグループの社員数	約8,300人
主な事業内容	環境・リサイクル事業 製錬事業 電子材料事業 金属加工事業 熱処理事業

所有者別株式分布状況



株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済み株式の総数	61,989,206株
株主数	9,610名

主要子会社

DOWAエコシステム ㈱	環境・リサイクル事業
DOWAメタルマイン ㈱	製錬事業
DOWAエレクトロニクス ㈱	電子材料事業
DOWAメタルテック ㈱	金属加工事業
DOWAサーモテック ㈱	熱処理事業
DOWAテクノロジー ㈱	技術サポート
DOWAマネジメントサービス ㈱	事務サポート

大株主

	持分比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	17.53%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	8.90%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	6.84%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	6.27%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	4.01%
藤田観光株式会社	3.12%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NON TREATY CLIENTS ACCOUNT	2.69%
全国共済農業協同組合連合会	2.63%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	1.90%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	1.56%

当社は自己株式1,828千株を保有しており、持分比率については自己株式を控除しています。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	3月31日　その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
公告方法	電子公告（https://hd.dowa.co.jp/） ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間　9:00～17:00（土日休日を除く）
株式に関するお手続き	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
よくあるご質問	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal QRコードからもアクセスいただけます。 （「QRコード」は、㈱デンソーウェーブの登録商標です。）

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021
東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階
電話番号　03-6847-1100
ホームページアドレス　**https://hd.dowa.co.jp/**

表紙撮影場所　DOWAサーモエンジニアリング ㈱ 浜松北工場

UD FONT

FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C013080

VEGETABLE OIL INK

Waterless Printing. Naturally.